関係法規・制度									
区別	必修	学年次	2	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	松原　文子							実務経験	無
授業の目的	専門職としての「美容師」について、美容師法による規制と行政による指導監督制度及びその他の美容業の関連法規を教育させる。 社会における専門職としての美容師としての職業意識を高め、職業倫理を身に付けさせる。								
到達目標	衛生行政の仕組みを理解する。 特に美容師法の目的と内容を理解し、職業意識を高める。 美容師国家試験合格を目標とする。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進めるとともにパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。								
	回	授業内容							
授業スケジュール	1-2	第 1 章　法制度の概要 社会生活における法の役割 法の実際 関係法規の概要							
	3-4	第 2 章　衛生行政の概要 法と行政 衛生行政の意義と歴史 衛生行政の種類と衛生行政機関							
	5-12	第 3 章　美容師法 美容師法の目的と構成 用語の定義 美容師 美容所 立ち入り検査と環境衛生監視員 違反者等に対する行政処分 罰則							
	13	第 4 章　関連法規							
	14-15	まとめ、国家試験対策							
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用								
評価方法	出席状況、期末テストを加味して総合的に評価する								
備　考									

衛生管理									
区別	必修	学年次	1	単位数	1.5	時間数	45	授業形態	講義
担当教員	三村　真吏							実務経験	無
授業の目的	美容師は、多くの人と接する職業であることから、美容業務上で必要不可欠な衛生知識【公衆衛生・環境衛生、感染症、衛生管理技術】を身に付けることで公衆衛生の向上を図る。								
到達目標	(1)公衆衛生・環境衛生 ・公衆衛生の成り立ちと美容業との関連を理解する。 ・我が国の公衆衛生の実態を理解し、今後の取り組みについて考える。 ・保健所の業務内容と美容業との関連を理解する。 (2)感染症 ・感染症についての知識を習得する。 ・美容の業務と感染症の関わりを理解する。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進めるとともにパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。								

	回	授業内容	回	授業内容
授業 スケジュール		【公衆衛生・環境衛生】		【感染症】
		1章　公衆衛生の概要		1 章　感染症の総論
	1	公衆衛生の意義と課題	1	人と感染症
	2	公衆衛生発展の歴史	2	病原微生物
	3	理容師・美容師と公衆衛生	3	感染症の予防
	4	保健所と理容業・美容業		2 章　感染症の各論
		2 章　保健	4	理容・美容と感染症
	5	母子保健	5	主な感染症
	6	成人高齢者保健	6	具体的な対策例
	7	精神保健		
		3 章　環境衛生		
	8	環境衛生の概要		
	9	空気環境		
	10	衣服・住居の衛生		
	11	上・下水道と廃棄物		
	12	衛生害虫とネズミ		
	13	環境保全		

テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキストを使用
成績評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。
備　考	

衛生管理									
区別	必修	学年次	2	単位数	1.5	時間数	45	授業形態	講義
担当教員	三村　真吏							実務経験	無
授業の目的	美容師は、多くの人と接する職業であることから、美容業務上で必要不可欠な衛生知識【公衆衛生・環境衛生、感染症、衛生管理技術】を身に付けることで公衆衛生の向上を図る。								
到達目標	(1)衛生管理技術 美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的を理解する。 美容の業務を行う上で必要な消毒方法の種類、特徴について正しい知識を習得する。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進めるとともにパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。								

	回	授業内容	回	授業内容
授業 スケジュール		【衛生管理技術】 1章　消毒法総論		
	1-2	消毒とは		
	3-4	消毒の意義		
	5	理容・美容の業務と消毒との関係		
	6-7	消毒法と適用上の注意		
		2章　消毒法各論		
	8.	理学的消毒法(殺菌法)		
	9	化学的消毒法(殺菌法)		
	10	すぐれた消毒法とその実施上の注意		
		3章　消毒法実習		
	11-12	各種消毒薬		
	13	理容所・美容所の消毒の実際		
	14	理容所・美容所の消毒法の実際		
		4章　衛生管理の実践例		
	15-16	美容所における衛生管理要領		
	17-20	総合学習、国家試験対策		

テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用
成績評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。
備　考	

保健									
区別	必修	学年次	1	単位数	1.5	時間数	45	授業形態	講義
担当教員	浪切　千鶴							実務経験	有
授業の目的	「健康」であることが人間の美の源泉であり、美容師は、人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業である。人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について具体的な知識を持ち、美容の職務を通じて、人々の精神的、社会的健康に貢献する。								
到達目標	人体の構造と機能を理解する。 特に美容技術と関連する頭部・顔部・頸部についての構造や機能には深い知識をもつ。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進める。特に人体各部の名称については、プリントに記入しながら覚えさせる。								
	回	授業内容							
授業スケジュール	1-2	保健を学ぶにあたって							
	3-4	人体の構造及び機能							
	5-6	頭部・顔部・頸部の体表解剖学							
	7-8	骨格筋系							
	9-10	筋系							
	11-12	神経系							
	13-14	感覚器系							
	15-16	血液・循環器系							
	17-18	呼吸器系							
	19-20	消化器系							
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用								
評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。 随時、チェックテストを実施する。								
備　考									

保健									
区別	必修	学年次	2	単位数	1.5	時間数	45	授業形態	講義
担当教員	浪切　千鶴							実務経験	有
授業の目的	「健康」であることが人間の美の源泉であり、美容師は、人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業である。人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について具体的な知識を持ち、美容の職務を通じて、人々の精神的、社会的健康に貢献する。								
到達目標	美容師と関わりの深い皮膚及び皮膚付属器官の構造について理解する。 皮膚及び皮膚付属器官の生理機能について理解し、美容との関係について理解する。 皮膚及び皮膚付属器官の保健と疾患を学習し、施術してよいか判断する力を身に付ける。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進める。特に皮膚の構造及び名称については、プリントに記入しながら覚えさせる。								
	回	授業内容							
授業スケジュール	1-4	1章　皮膚の構造							
	5-10	2章　皮膚付属器官の構造 ・毛 ・脂腺、汗腺、 ・爪							
	11-12	3章　皮膚の循環器系と神経系							
	13-15	4章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能							
	16-18	5章　皮膚と皮膚付属器官の保健							
	19-20	6章　皮膚と皮膚付属器官の疾患							
	21-25	総合学習、国家試験対策							
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用								
評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。 随時、チェックテストを実施する。								
備　考									

香粧品化学									
区別	必修	学年次	1、2	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
担当教員	芳地　一、小坂　信二、田中　裕章							実務経験	無
授業の目的	香粧品に用いられている原料の化学的性質や配合目的などについて学び、各種香粧品の有用性、安全性及び使用目的について理解を深め、これを活用し実践する能力を身に付ける。								
到達目標	美容師として、業務遂行上具備すべき知識と技能を修得する。 美容師国家試験の受験科目であることをよく理解し、1回でクリアすることを第一の目標とする。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進めるとともにパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。								

	回	授業内容
授業スケジュール	1-2	香粧品概論、香粧品と薬事法 （芳地）
	3-4	香粧品原料 1　水性原料と油性原料 （小坂）
	5-6	香粧品原料 2　界面活性剤 （小坂）
	7-8	香粧品原料 3　高分子化合物、香料 （小坂）
	9-10	香粧品原料 4　色材 （田中）
	11-12	香粧品原料 5　その他の配合成分 （田中）
	13-14	基礎香粧品 1　皮膚洗浄剤、化粧水 （芳地）
	15-16	基礎香粧品 2　クリーム・乳液 （芳地）
	17-18	ベースメイクアップ香粧品 （小坂）
	19-20	ポイントメイクアップ香粧品 （小坂）
	21-22	毛髪用香粧品 1　シャンプー剤・リンス剤・スタイリング剤 （田中）
	23-24	毛髪用香粧品 2　パーマネントウェーブ用剤 （芳地）
	25-26	毛髪用香粧品 3　染毛剤 （小坂）
	27-28	その他の香粧品 （田中）
	29-32	国家試験対策 （芳地、小坂、田中）

テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用
評価方法	出席状況、期末テストを加味して総合的に評価する。
備　考	

文化論									
区別	必修	学年次	1、2	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
担当教員	松田　有生							実務経験	無
授業の目的	「美容」が、人の歴史の中でどのようにかかわってきたかを学び、今を知る手掛かりとなる。日本と西洋、それぞれの歴史の中にみる理容・美容は、各時代の人々が、どのような時代背景の中で、どのような美しさを求めたのかを学習することで、今求められている「美しさ」を知り、美容の技術を施術するうえで理解を深め、創造力を養う。								
到達目標	・日本の理容業・美容業の成り立ちを理解する。 ・日本と西洋のファッション文化史を学び、各時代の代表的なヘアスタイル、メイク、ファッションの知識を身に付ける。 ・和装・洋装の礼装について学び、マナーの知識を身に付ける。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進めるとともにパワーポイントによるプレゼンテーションを実施する。								
	回	授業内容			回	授業内容			
授業スケジュール	1 2-6 7-13	1 章　総論 2 章　日本の理容業・美容業の歴史 ・理容業・美容業の発生 ・江戸時代の理容業・美容業 ・近代の理容業・美容業 ・現代の理容業・美容業 3 章　ファッション文化史＜日本編＞ ・縄文・弥生・古墳時代 ・古代（飛鳥・奈良・平安時代） ・中世（平安末～戦国時代） ・近世（戦国末～江戸時代） ・近代（明治～昭和20年まで） ・現代（1945 年～1990年代まで） ・現代（2000 年代以降）			14-20 21-24 24-30	4 章　ファッション文化史＜西洋編＞ ・古代エジプト ・古代ギリシャ・ローマ ・古代ゲルマン ・中世ヨーロッパ ・近世（16・17・18 世紀） ・近代（18 世紀末～19 世紀初め） ・代（1910 年代～2010 年） 5 章　礼装の種類 ・和装の礼装 ・洋装の礼装 国家試験対策			
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用 必要とあれば、資料を配布する								
評価方法	出席状況、期末テストを加味して総合的に評価する。								
備　考									

美容技術理論Ⅰ									
区別	必修	学年次	1	単位数	3	時間数	90	授業形態	講義
担当教員	津田ひろみ、 光宗幸江、 井原千恵、 植村　忍							実務経験	有
授業の目的	・美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身にさせる。 ・美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容用具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる。同時に、美容用具による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。 ・すぐれた美容技術は、経験のみで得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを認識させる。								
到達目標	・美容で使用する器具について種類、特徴、基本的操作方法などを学ばせる。 ・美容技術の意義を学び、技術を行う場合の心得を理解すること。 ・美容技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮しなければならない基礎知識を理解すること。								
授業の進め方	・教科書に添って、各論の講義を進める。 ・実務に携わる美容師の体験談を聞かせたり、実物を見せたり美容技術に関する具体的な知識を習得させる。 ・美容実習の進行状況とあいまって、学習効果を高める。								
	回	授業内容							
授業スケジュール	1-2	序章　美容技術理論を学ぶにあたって ・美容理論と美容技術 ・美容技術における作業姿勢 ・美容技術に必要な人体各部の名称							
	3-6	1章　美容用具							
	7-11	2章　シャンプーイング							
	14-16	3章　ヘアデザイン ・美容とデザイン							
	17-25	4章　ヘアカッティング							
	26-30	5章　パーマネントウエービング							
	31-35	6章　パーマネントウエーブの歴史と現在							
	36-40	7章　ヘアセッティング ・ヘアカラーリング ・ヘアカラーリングの種類 ・染毛のメカニズム							
	41-45	総合問題							
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用								
評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。 随時、チェックテストを実施する。								
備　考									

美容技術理論Ⅱ									
区別	必修	学年次	2	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
担当教員	津田ひろみ、 光宗幸江、 井原千恵、 植村　忍							実務経験	有
授業の目的	・美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身にさせる。 ・美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容用具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる。同時に、美容用具による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。 ・すぐれた美容技術は、経験のみで得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを認識させる。								
到達目標	・美容で使用する器具について種類、特徴、基本的操作方法などを学ばせる。 ・美容技術の意義を学び、技術を行う場合の心得を理解すること。 ・美容技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮しなければならない基礎知識を理解すること。 ・美容師国家試験に合格できるレベルに達すること。								
授業の進め方	・教科書に添って、各論の講義を進める。 ・実務に携わる美容師の体験談を聞かせたり、実物を見せたり美容技術に関する具体的な知識を習得させる。 ・美容実習の進行状況とあいまって、学習効果を高める。								
	回	授業内容							
授業スケジュール	1-4	8章　エステティック							
	5-8	9章　ネイル技術							
	9-12	10 章　メイクアップ							
	13-16	11章　日本髪							
	17-20	12章　着付けの理論と技術							
	21-30	国家試験対策・総合問題							
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用 国家試験過去問を使用								
評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。 随時、チェックテストを実施する。								
備　考									

運営管理									
区別	必修	学年次	2	単位数	1	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	宮本　えり子							実務経験	無
授業の目的	就職するうえでの心構え、スタッフの一員となって経営に参画することの意味や働くうえでの義務、権利を理解する。将来、自分が経営者となる立場であることを認識させる。								
到達目標	経営とは何か。経営の基礎を理解する。 人を雇うことの責任や働くうえで求められることを理解する。 顧客を満足させるサービスとは何かを理解する。								
授業の進め方	教科書に添って、各論の講義を進める。								
	回	授業内容							
授業スケジュール	1-4	第 1 編　経営者の視点 1 章　経営とは・経営者とは 2 章　理容業・美容業の経営について 3 章　資金の管理							
	5-9	第 2 編　人という資源　従業員としての視点 1 章　人という資源 2 章　健康・安全な職場環境の実現 3 章　従業員としての視点から							
	10-12	第 3 編　顧客のために 1 章　サービス・デザイン 2 章　マーケティング 3 章　サービスにおける人の役割							
	13-15	総合問題、国家試験対策							
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、ワークブックを使用								
評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。 随時、チェックテストを実施する。								
備　考									

美容実習									
区別	必修	学年次	1	単位数	17	時間数	510	授業形態	実技
担当教員	津田ひろみ、 光宗幸江、 井原千恵、 植村　忍							実務経験	有
授業の目的	・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組合せて完成させる技術を身に付ける。 ・美容所における衛生管理の重要性を認識させる。 ・個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。								
到達目標	・美容の基礎的技術を行うにあたり、衛生面の取り扱いを確実に修得させる。 ・ワインディング技術・オールウェーブセッティング技術について、基礎技術を理解し、技術の正確性と規定の速度で全頭を仕上げることが出来ること。 ・美容師国家試験の合格基準レベルにほぼ達すること。								
授業の進め方	・美容技術理論の学習状況に配意しつつ、理論と実習との相互の連携を図りながら専門技術を効果的に習得できるよう指導する。 ・生徒の技術習得状況を常に把握するため、生徒ごとに実習記録票を作成する。								

	実施	授業内容	実施	授業内容
授業スケジュール	4～5 月

美容実習									
区別	必修	学年次	2	単位数	13	時間数	390	授業形態	実技
担当教員	津田ひろみ、 光宗幸江、 井原千恵、 植村　忍							実務経験	有
授業の目的	・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組合せて完成させる技術を身に付ける。 ・美容所における衛生管理の重要性を認識させる。 ・個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。								
到達目標	・美容の基礎的技術を行うにあたり、衛生面の取り扱いを確実に修得させる。 ・カッティング技術について、基礎技術を理解し、技術の正確性と規定の速度で全頭を仕上げることが出来ること。 ・美容師国家試験の合格基準レベルに達すること。 ・まつ毛エクステンション技術は、ABE検定に合格すること。								
授業の進め方	・美容技術理論の学習状況に配意しつつ、理論と実習との相互の連携を図りながら専門技術を効果的に習得できるよう指導する。 ・生徒の技術習得状況を常に把握するため、生徒ごとに実習記録票を作成する。 ・国家試験対策施策として、シミュレーション形式を繰り返す。								

	実施月	授業内容	回	授業内容
授業スケジュール	4 月	レイヤーカット技術 ・理論と基礎ブロッキング ・シザーズの使い方、開閉 ・全体のつながり ・ヘムライン ・長さの確認		まつ毛エクステンション 【理論】
			1	まつ毛エクステンション概論 用具について
			2-3	衛生管理及び消毒法
			4	保健
	5 月～	計測し全頭を仕上げる 反復練習、技術チェックを繰り返す	5	カウンセリング 【実習】
	7 月	期末試験	6	事前準備、注意事項
	9 月	校内技術コンクール	7	エクステンションの装着
	11　月	国家試験対策授業	8	エクステンションのリムービング
	～	発表された実技課題を習得	9	エクステンションのデザイン
	1 月末		10-11	装着～リムービングについて 計測、反復練習
			12	ABEまつ毛エクステンション検定

テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキスト、
評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。 随時、チェックテストを実施する。
備　考	

美容美術									
区別	必修	学年次	1	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
担当教員	佐藤　祐司							実務経験	無
授業の目的	美容師は、髪型の決定から仕上げまでのすべてをこなす特殊な職業ある。自分のイメージしたデザインを相手に伝える場合、言葉だけでなくデザイン画をプラスした方がより正確に伝えることができ、創作にも広がりを持たせることができる。								
到達目標	ヘアスタイル画を描き続けることで顔のバランスやプロポーションに対する理解を深め、観察力を養う。 全国理容美容学生技術大会ヘアデザイン画部門での入賞を目指す。								
授業の進め方	公益社団法人日本理容美容教育センターのテキストをもとに理論を学び、いろいろなイメージのヘアスタイル画を描く。年 2 回、校内ヘアデザイン画コンテストを実施する。								

	回	授業内容
授業スケジュール	1	1.　鉛筆の削り方
	2	2.　顔のプロポーション
	3	3.　顔の部分練習
	4	4.　顔の描き方
	5	5.　角度の変化による顔形
	6	6.　ヘアの描き方
	7	7.　色々な描き方
	8	8.　顔の部分練習
	9	9.　配置によるイメージの違い
	10	10.　ヘアスタイル画によるイメージの違い
	11	11.　同じ顔でイメージを変える
	12	12.　テーマを決め、ヘアデザイン画を描く
	13-20	13.　繰り返し練習 ※校内美容技術コンクールに参加（7 月、2 月）

テキスト・教材	公益社団法人日本理容美容教育センターのテキストを使用
評価方法	年 2 回校内美容技術コンクールを開催し、ヘアデザイン画について評価する
備　考	

情報処理									
区別	必修	学年次	1	単位数	2	時間数	60	授業形態	講義
担当教員	宮本　えり子							実務経験	無
授業の目的	コンピュータなどの情報機器の操作方法、情報処理の基礎技術を身に付けさせる。 情報機器を活用して、日常業務の効率化、合理化を図る能力を身に付けさせる。								
到達目標	「Word」「 Excel」「 PowerPoint」の基礎知識・基本操作を理解し、状況や好みに合わせて効率よく操作が出来るようにする。 「PowerPoint」を利用したプレゼンテーションができるようにする。								
授業の進め方	イートピア高松のパソコンルームを利用し、「情報リテラシー　Office 2019」に添って、個々がパソコンを操作する。								

	回	授業内容
授業スケジュール	1	Windows10 の基礎知識・基本操作、 Office 2019 の基礎知識・基本操作 パソコンの基礎知識、 USBメモリの利用
	2	Word の基礎知識・基本操作、お知らせ文の作成　演習
	3	表を利用した文書の作成、印刷のテクニック　演習
	4-5	表現力のある文書作成（イラストや写真の利用） 演習
	6	ショップカード作成
	7	レターセットの作成
	8	Excel の基礎知識・基本操作、簡単な計算書の作成　演習
	9	計算式を使った計算書作成・印刷
	10-13	関数を利用した計算書作成　演習
	14	グラフとデータベース　演習
	15	PowerPoint の基本操作・プレゼンテーションの知識
	16	プレゼンテーション作成
	17	お気に入りのプレゼンテーションの作成
	18-20	PowerPoint を利用した動画作成

テキスト・教材	「情報リテラシー　Office 2019」を使用、 USBメモリ
評価方法	授業態度、レポート提出、出席率及び期末テストの点数を考慮し評価する。
備　考	

美容総合技術									
区別	必修	学年次	1、2	単位数	3	時間数	90	授業形態	実技
担当教員	津田ひろみ、光宗幸江、井原千恵、植村　忍、那賀祐美							実務経験	有
授業の目的	校内外のイベントやコンテストに参加し幅広い体験をすることにより感性と創造力を養い、美容に関する知識、技術をトータルビューティとして生かす力を身に付ける。								
到達目標	・校内美容技術コンクール（９月）に参加する。 ・香川県美容技術選手権大会（６月）に参加する。 ・公益社団法人日本理容美容教育センター主催の全国理容美容学生技術大会四国地区大会（８月）に参加し、全国大会（１１月）へ出場できることを目標とする。 ・卒業製作ヘアメクショー（１１月）を実施する。								
授業の進め方	各種イベントやコンテストの競技内容に基づき実習を行う。								
	回	授業内容							
授業 スケジュール		●校内技術コンクール（９月） １年次・・・ワインディング ２年次・・・カット ●香川県美容技術選手権大会 １年次・・・ワインディング ２年次・・・ワインディング、フリースタイル、ネイルアート、カット ●全国理容美容学生技術大会四国地区大会 カット、ワインディング、アップスタイル、ネイルアート、ヘアデザイン画 ●卒業製作ヘアメイクショー テーマに基づきグループに分かれ、ショーをする。							
テキスト・教材	各イベント、コンテストに指定されたもの								
成績評価方法	授業態度及びコンテスト等の成績をもって評価とする。								
備　考									

カラーリング技術									
区別	必修	学年次	1、2	単位数	2	時間数	60	授業形態	実技
担当教員	津田ひろみ、 光宗幸江、 井原千恵、 植村　忍、 那賀祐美							実務経験	有
授業の目的	・サロンワークで需要の高いヘアカラーリングについて、基礎的な技術を習得させる。								
到達目標	・NPO法人日本美容技術振興センターカラー部会 の指導要綱より、1 年次はプライマリーコースを修得、2 年次はアドバンスコースを修得する。								
授業の進め方	・NPO法人日本美容技術振興センター発行のテキストに基づき、1 年次は基礎理論と基礎技術、2 年次は、応用技術を学ばせる。 ・NPO法人日本美容技術振興センターより講師を迎え、サロンで実践できる技術講習を実施してもらう。								

	回	授業内容
授業スケジュール	1-5	相モデルでシャンプー練習 シャンプーチェックテスト
	6	ヘアサイエンス（ヘアカラーをする為の毛髪知識） ヘアカラー原理 ヘアカラー剤の分類（目的と特徴）と知識
	7-8	ベーシックカラーテクニック（マニキュア系・アルカリ系） ブロッキング、スライシング コーム、ハケ、ブラシワーク
	9	相モデルでカラーリング
	10	リタッチカラー塗布
	11	デザインカラーテクニック
	12	色相・明度・彩度について
	13-14	フォイルワーク・ウィービングについて ブロッキング/セクショニング
	15-19	ホイルワークの反復練習
	20	ホイルワーク試験

テキスト・教材	NPO法人　日本美容技術振興センター発行のテキストを使用
評価方法	授業態度、出席率及び実技チェック試験を行い評価する。
備　考	

メイクアップ技術									
区別	必修	学年次	1、2	単位数	2	時間数	60	授業形態	実技
担当教員	津田ひろみ、 光宗幸江、 井原千恵、 植村　忍、那賀							実務経験	有
授業の目的	・美容師法の定義にあるように、メイクアップ技術はヘア技術と一体化して容姿を美しく実現するための手段である。単に顔の表面に色を塗ることではなく、「目的に合った顔づくり」が出来るメイクアップ技術を習得する。								
到達目標	2 年次に校内メイクコンテストを開催し、テーマに基づき、自分のライブモデルを最大限に輝かせることができるメイクアップを施術することができる。								
授業の進め方	公益社団法人日本理容美容教育センター発行のテキストを使用し、理論と相モデルによるメイクアップ技術を行う。								
	回	授業内容							
授業スケジュール	1-4 5-11 12 13-14 15-19 20	道具の説明・準備の仕方 ・ローショントーニング ・クリームトーニング ・ベースメイクアップ（ファンデーション塗布～フェイスパウダー） ポイントメイクアップ ・リップメイクアップ ・アイメイクアップ ・ラッシュメイクアップ ・アイブローメイクアップ ・フィニッシュメイクアップ フルメイクアップ実技体験 外部講師によるメイクアップ講習 校内メイクアップコンテストに向けて練習 校内メイクアップコンテスト							
テキスト・教材	公益社団法人　日本理容美容教育センター発行のテキストを使用 トニーズコレクション・メイク教材一式								
評価方法	授業態度、出席率及び校内メイクコンテストに参加し仕上がり審査を考慮し評価する。								
備　考									

スタイリング技術									
区別	必修	学年次	1、2	単位数	2	時間数	60	授業形態	実技
担当教員	津田ひろみ、光宗幸江、井原千恵、植村　忍、那賀祐美							実務経験	有
授業の目的	ヘア技術・アップスタイルは、年齢や職業、TPOで作り方が異なるが、和装、洋装のどちらにも使えるアップの需要は少なくない。アップスタイルの基本をマスターし、個性あるデザインを創り美容師として顧客のニーズに応えれるようにする。								
到達目標	NPO法人日本美容技術振興センタースタイリング部会の指導要領より、1年次はプライマリーコースを修得、2年次はアドバンスコースを修得する。								
授業の進め方	・NPO法人日本理美容技術振興センター発行のテキストに基づき、1年次はアップスタイルを手早く結い上げる為に束ねる・留める・ねじる・巻き付ける・広げるなどの基本技術を組み合わせ6つのスタイルを作る。 ・2年次は全体のバランスやシルエット等を勉強し、スタイルの幅を広げる。								

	回	授業内容	回	授業内容
授業 スケジュール		【プライマリーコース】		【アドバンスコース】
	1	●ベーシックテクニック 面を整える・束ねる・留める 逆毛を立てる	1～2	●まとめ髪スタイルの重要点 ボリュームポイント テクニックの種類 シルエットの考え方 シニヨン構成
	2	●ファーストステップ シェープする・束ねる・ピニングする		
	3	●ネープシニヨン ロープ編みの作り方 ロープ編みのシニヨン	3	●タイトロープ ツイストで作るロープン技法 パーティーヘア＆浴衣ヘア
	4	●サイドシニヨン 土台の作り方、クロスして束ねる 仕上がりのデザイン	4	●ワンロール クラッシクな面のスタイル
	5	●スリーブロック 高さと位置のバランス、すき毛の作り方 ディテールの散らし方	5	●バッククロスリボンシニヨン バッククロス編みの作り方
	6	●トップシニヨン アイロンテクニック ツイストさせてピニング、Uピン使い方	6 7	●合わせ夜会 和風テイストのシルエット
	7	●夜会巻き	8～10	●自由アレンジ課題
	8～10	●自由アレンジ課題		

テキスト・教材	NPO法人日本理美容技術振興センター発行のテキストを使用
成績評価方法	スタイリング用ウィッグを使用し、アップスタイル技術を生かしアレンジ作品を創作する。 授業態度も考慮する。
備　考	

スキルアップコース									
区別	選択	学年次	2	単位数	4	時間数	120	授業形態	実技
担当教員	津田ひろみ、光宗幸江、井原千恵、植村　忍、那賀祐美							実務経験	有
授業の目的	美容師が業として行える美容技術は日々進歩しており、「トータルビューティ」と言われるように施術の種類もかなり多い。少しでもサロンで実践できる応用技術を学習し、各人の個性を引き延ばすと共に主体的に動ける美容師を育成する。								
到達目標	・ネイル技術は、SBSネイルディレクター2級検定合格を目標とする。 ・着付け技術は、山野流着装の初伝・中伝を取得する。 ・サロンワークの応用技術を学び生かせるようにする。								
授業の進め方	SBSネイルディレクター検定要綱、山野流着装指導要領に基づき、相モデルで実践していく。								
	回	授業内容							
授業 スケジュール		【ネイル技術】------ネイル理論							
	1	ネイル概論、ネイル学							
	2	公衆衛生学、カウンセリング							
	3	ネイルケア、テーブルセッテイング、ネイル技術用品、ハンドマッサージ							
	4	アーティフィシャルネイル、筆記試験							
		【ネイル技術】------ネイルケア実技							
	5	テーブルセッテイング、道具の使い方、準備							
	6-7	マニキュアデモンストレーション、ファイリング、キューティクル処理、							
	8-9	バッフィング、マッサージ、カラーリングの分解処理							
	10-19	通し練習							
	20	実技試験							
		【着付け技術】							
	1	着付けの小物について、襦袢の襟綴じ、補正着作成							
	2	浴衣・着物の基礎知識、技術展示							
	3～4	浴衣着付け							
	5	小紋と帯結び、技術展示							
	6～8	小紋着付け							
	9	小紋査定							
	10	留袖着付けについて、比翼綴じ、技術展示							
	11	留袖について、帯の知識、留袖着付け							
	12～17	留袖着付け							
	18	留袖査定							
	19～20	振袖着付け、技術展示							
テキスト・教材	SBSネイルテキスト及びネイル教材及び国際美容協会発行山野流テキストを使用する。								
成績評価方法	授業態度と検定試験の結果をもって評価とする。								
備　考									